

〔科目名〕 経営戦略論Ⅱ	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目 基幹科目																					
〔担当者〕 小松原 聡 こまつばら さとし	〔オフィス・アワー〕 時間： 授業時間の前後を利用します 場所： 講義に使用する教室 ※ オフィス・アワー外の連絡先(メール・アドレス) s-komatsubara@aomoricgu.ac.jp	〔授業の方法〕 講義																					
〔科目の概要〕 <p>「経営戦略論」は経営学における重要な学問領域の一つであり、企業の存在目的や意義を高度に実現するための目標体系や、目標を達成するための合理的な施策・実現手段・活動体系を構築するための理論体系です。「経営戦略論Ⅰ」では企業の行動を決定付ける経営戦略に関する基礎的な理論を体系的学習したので、「経営戦略論Ⅱ」では経営戦略理論の応用力を修得することを目指して、戦略経営に関する今日的課題テーマに即した経営戦略の考え方を理解します。</p> <p>戦略経営には、経営戦略論のみならず経営組織論や管理論の領域に含まれる考え方を総合的に理解することが求められるので、それらの視点を含めて理解することを視野に入れます。また、この科目では、理論の修得だけではなく、経営戦略策定等のコンサルティング実務経験を有する教員の経験を活かした講義を行う、実践的な課題解決型学習(PBL)の要素を取り入れた授業を展開します。</p>																							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 〔他の科目との関連付け〕 <p>本講義を理解するためには「経営戦略論Ⅰ」を履修していることを前提とします。また、戦略経営では、企業組織内のさまざまな機能や組織階層間の連携・整合性が確保されることのみならず、市場や経済等社会全般との関わりの中における適切な意思決定に基づく企業行動が求められます。本講義を通じて経営戦略理論を実際の企業経営のコンテキストの中で理解できるようになるためには、経営組織・管理、マーケティング、会計・財務等経営の諸理論の統合的な理解が必要とされるのみならず、他学問分野を含めた学際的な知識を修得する姿勢が大事になります。</p> 〔学んだことが何に結びつくか〕 <p>経営戦略に関する主要理論を体系的に理解した上で、それらを実際の企業経営の諸局面における戦略的行動に関する意思決定に応用できるようになることを目指し、企業経営の今日的課題解決の視点から戦略経営の実践方法を理解します。</p>																							
〔科目の到達目標〕 <p>本講義を通じて、さまざまな情報を取捨選択しながら、自ら考え、意思決定し、自らの方向性を確立できる能力の構築を到達目標とします。より具体的には、以下の視点から、「市場はもとより、多様な環境の変化に適応するだけでなく、自らが戦略的に変革を目指し、実践できる」能力と「会計データを読み、資金の調達や運用に関わる財務上の問題を見出し、それに関する解決策を提示できる」能力の構築を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 戦略的な経営に必要な戦略理論を的確に選択でき、それを適用できるようになる。 2. 戦略経営の基本フレームを設計することができる。 3. 技術を含めた重要な環境変化に対する戦略経営の進化のあり方をデザインすることができる。 																							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕 <p>本科目は以下の DP に関係しています。</p>																							
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">学部</th> <th colspan="3">学科</th> </tr> <tr> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> <th>DP4</th> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			学部				学科			DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	○	○			○		
学部				学科																			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3																	
○	○			○																			
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>実例を交えて理論を平易に解説することで、実践的な戦略理論の枠組みを理解しそれらを活用できる基礎力を獲得することを重視します。</p>																							
〔教科書〕 <p>以下の書籍を教科書として使用します。 「戦略経営の基本フレームと実践 価値創造企業へ進化する DX 時代の経営システム・デザイン」、小松原聡 著、文眞堂 (2023 年 4 月 28 日)。</p>																							
〔指定図書〕 <p>特に指定しません。</p>																							
〔参考書〕 <p>「DX 時代をリードする新日本的経営のデザイン 世界で勝てる価値創造経営を実現する現場力活用」、日本</p>																							

<p>型企業再生モデル研究ワーキング・グループ編、文眞堂(2022年5月15日) その他については、授業内で適宜紹介します。</p>	
<p>〔前提科目〕 「経営戦略論Ⅰ」および1年次の経済・経営に関係する科目を履修していることが望ましい。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 学期末試験：実施しません(0%)。 授業の理解度を確保する課題レポートの内容(100%)。課題レポートは、3～4回分の授業ごとに出題し、授業時間内で対応する小テストの形式とします。課題レポートは、以下の視点から評価します。また、特別の配慮が必要な学生については、個別に対応します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 出題意図の理解 ● 授業で学習した経営理論や経営要件の理解度 ● 解答の論理性 ● 解答の文章量と表現の妥当性(分かり易さ、読み易さ、文章表現の妥当性、等) ● 以下は大幅に減点します <ul style="list-style-type: none"> ・教科書と配付資料以外の文献やウェブサイト生成AIの内容(コピー・ペースト)が大半を占める ・教科書と配付資料以外の文献からの引用に際して出典が明示されていない ・他の学生と同一の記述が目立つ <p>下記の点数の範囲で評価を行います。 A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～50点、F:49点以下</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 経営学を学ぶ学生の皆さんが理解し易いように、理論と具体的事例を交えた授業を展開し、実践的な応用力の養成を目指します。 授業開始前に、シラバスに記載の授業内容を指定図書や授業資料で確認しておくことを求めます。授業終了後は、学習内容を整理し理解を深化させ、不明な点等については担当教員に確認する等して疑問点を解消することを求めます。授業における標準的な事前・事後学習時間は3時間です。</p>	
<p>〔実務経歴〕 経営コンサルタントとして、戦略マネジメント・コントロール・システムの開発～実装に関するプロジェクトを多数実施。総合商社の企画部門で商権(=事業モデル)改革や、異業種交流のための研究組織の事務局長も経験。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか)：オリエンテーション 経営学と経営戦略論の概要 内 容： ・本講義の目的・概要、授業の進め方、成績評価方法、その他留意点について ・経営戦略論の学問的位置付け ・戦略経営の基本的な考え方 ・経営戦略論の体系 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第1章、第Ⅱ部(第7章～第10章)。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか)：経営戦略論の概要-2 内 容：ダイナミックな戦略論と組織能力 ・戦略経営を実践する上での環境要因の変化 ・より今日的な経営戦略理論の考え方 ・これからの戦略経営が目指すもの 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第9章～第10章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか)：成長志向の経営への転換 内 容： ・成長戦略の重要性と基本的な考え方 ・日本企業の近年の対応と成長の阻害要因 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第6章と第15章</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか)：価値創造におけるサービス事業化-1 内 容：経済のサービス化動向 ・サービスの本質 ・サービス化対応の理解 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第16章 16.1</p>

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 価値創造におけるサービス事業化-2</p> <p>内 容: 製造業のソリューション事業化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造業がサービス化することの意義 ・ソリューション事業の理解 <p>教科書・指定図書: 「戦略経営の基本フレームと実践」の第16章 16.2</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 価値創造におけるサービス事業化-3</p> <p>内 容: ソリューション事業化する製造業のマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造業のサービス化するための障壁 ・製造業がサービス化で成功するためのマネジメントの選択肢 <p>教科書・指定図書: 「戦略経営の基本フレームと実践」の第16章 16.3</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 国際事業展開-1</p> <p>内 容: 国際事業展開の戦略視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成長戦略と国際事業 ・国際事業の類型 <p>教科書・指定図書: 「戦略経営の基本フレームと実践」の第17章 17.1</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 国際事業展開-2</p> <p>内 容: 国際事業展開のマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際統合とローカル適合 ・国際事業と分権化 <p>教科書・指定図書: 「戦略経営の基本フレームと実践」の第17章 17.2</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 国際事業展開-3</p> <p>内 容: 日本企業の国際事業展開オプション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BOP 市場対応 ・国際市場リーダー対応 <p>教科書・指定図書: 「戦略経営の基本フレームと実践」の第17章 17.3</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): イノベーションを加速する経営-1</p> <p>内 容: 知識創造の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションによる成長戦略 ・イノベーションのための知識創造の要件 <p>教科書・指定図書: 「戦略経営の基本フレームと実践」の第18章 18.1</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): イノベーションを加速する経営-2</p> <p>内 容: イノベーションのための経営環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知の進化と知の探索 ・イノベーションをリードする人材の要件 <p>教科書・指定図書: 「戦略経営の基本フレームと実践」の第18章 18.2～18.3</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 価値創造のための有機的適応経営-1</p> <p>内 容: 日本の企業再生のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経営革新の評価 ・日本企業の強みを活かした企業再生の考え方 <p>教科書・指定図書: 「戦略経営の基本フレームと実践」の第20章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 価値創造のための有機的適応経営-2</p> <p>内 容: 有機的適応企業の要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識創造とイノベーションを加速する要件 ・有機的適応の考え方 <p>教科書・指定図書: 該当せず (授業資料を配付予定)</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 価値創造のための有機的適応経営-3</p> <p>内 容: 認知科学的視点からの経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機的適応組織に転換するための視点 ・有機的適応組織を支援する環境 <p>教科書・指定図書: 該当せず (授業資料を配付予定)</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 授業の総括</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業で学んだ内容の理解度を確認する意味を含めた総括。 ・全体を通じた Q&A <p>教科書・指定図書: 該当せず (授業資料を配付予定)</p>
試 験	<p>期末の定期試験は実施しません。授業内で実施する小テスト形式の課題対応とします。</p>